

2025年度「TKU進一層賞」受賞者一覧

II. 資格取得部門

表彰内容	学部・学年	氏名	分野	区分	
学長賞、父母の会会長賞	経済4年	伊藤 充希	会計	公認会計士	
	経営4年	狩野 翔一			
	経営4年	脇 達軌			
	経営3年	三橋 奏太			
卒業生	高橋 森之祐				
卒業生	大山 友幸				
卒業生	溝上 健叶				
卒業生	雨宮 竜晟				
卒業生	江藤 康祐				
学長賞、父母の会会長賞	経営4年	町田 烈			日商簿記1級
	経営4年	長田 寛生			
	経営3年	井手上 健人			
	経営3年	水野 好太郎			
	経営3年	伊藤 将英			
	経営3年	松澤 遼			
	経営3年	朝倉 健太			
	経営3年	権田 美咲			
	経営3年	三橋 奏太			
	経営2年	大村 享弘			
	経営4年	桑田 美空			
	経営4年	池田 聡真			
	経営3年	手塚 虹汰			
	経営3年	井手上 健人			
	学長賞、葵友会会長賞	卒業生	大滝 康平	税理士	
卒業生		柏本 優介			
卒業生		中山 友輔			
学長賞、父母の会会長賞	経営学博士2年	木村 真実	税理士(初回の科目合格)		
	経営3年	手塚 虹汰			
	経営3年	水野 好太郎			
	経済3年	水村 胡桃			
	経営3年	松澤 遼			
	経営2年	細田 拓弥			
	経営4年	長田 寛生			
	卒業生	齋賀 優香			
学長賞、葵友会会長賞	卒業生	佐藤 美来	法律		
	卒業生	齋賀 優香			
学長賞、父母の会会長賞	現代法4年	山本 晴哉		司法試験 司法書士 行政書士	
現代法4年	山本 晴哉				
学長賞、父母の会会長賞	経済4年	松田 匠翔	英語	TOEICテスト900点以上	
	経済4年	大野 孝介			
	経済4年	鎌木 星多			
	経済4年	高崎 将豪			
	経済3年	菅野 希一			
	経済3年	三浦 爽			
	経済2年	S アナボルド			
	経済2年	チャンティアンソー			
	経営4年	栗林 青哉			
	経営3年	坂巻 杏奈			
	経営1年	阿部 颯			
	経営1年	金子 乃唯			
	コミュニケーション4年	竹中 美奈実			
	コミュニケーション4年	秋元 駿佑			
	コミュニケーション4年	小野 優貴			
	コミュニケーション2年	篠崎 快			
	コミュニケーション2年	尾幡 直希			
	コミュニケーション2年	池宮城 秀磨			
	学長賞、父母の会会長賞	経営4年	今井 大樹	情報	基本情報技術者
		経済4年	長谷川 輝至		
経営4年		秋本 泰宏			
経営4年		今井 大樹			
経営4年		吉田 雄海			
経営2年	平中 瑞樹	その他	情報セキュリティマネジメント 中小企業診断士(1次合格) 統計検定準1級		

表彰内容	人数	分野	区分
CSC運営委員長賞	37	会計	日本商工会議所簿記検定2級
	44		日本商工会議所簿記検定3級
	12		法学検定スタンダード
	13		法学検定ベーシック
学長賞	2	英語	ビジネス実務法務検定3級
CSC運営委員長賞	16	情報	TOEICテスト600点以上
	14		ITパスポート
	9		MOS(エクセル)
	8		MOS(ワード)
	1		MOS(パワーポイント)
	1	その他	実用数学技能検定準1級
	6		2級ファイナンシャル・プランニング技能士
	10		宅地建物取引士
	8		一種証券外務員
	2		統計検定2級
	32		3級ファイナンシャル・プランニング技能士
	5		秘書技能検定2級
	1		統計検定3級

Ⅲ. 課外活動部門

1. 体育会分野

最優秀団体賞(学長賞)	体育会(団体)		第52回全日本大学ローイング選手権大会(インカレ)において男子ペアが優勝。また男子クォドルプルでも5位入賞を果たした。
	端艇部		
最優秀個人賞(父母の会会長賞)	端艇部(個人)		5月に行われた第103回全日本ローイング選手権大会での準優勝後、さらなる練習を重ね、9月の第52回全日本大学ローイング選手権大会にて優勝。
	経営4年 経営3年	西海 広亮 宮下 登羽	

2. 文化会分野

なし

3. その他の学生活動分野

優秀団体賞(学長賞)	東京経済大学国際交流会館 レジデントアシスタント		東京経済大学国際交流会館において、寮生主体で寮生活の質向上と交流促進を目的に活動。新入寮生懇親会や学習相談会、試験前勉強会、避難訓練前交流会、他大学(武蔵野美術大学)との交流企画など、年間を通じて多様なイベントを企画・運営。これらの活動を通じ、学年・国籍を越えた交流機会の創出に寄与。  特筆すべきは、単なるイベント運営にとどまらず、大学職員と連携しながら寮環境そのものの改善に踏み込んだ点。寮ロビー活用に関するアンケートを複数回実施・分析し、その結果を基に、洗濯機のキャッシュレス化対応や自動販売機の新500円硬貨対応、さらにはウォーターサーバー・大型ディスプレイ導入に関する要望書を作成し、大学へ正式に提案。また、新入寮生向けの周辺マップおよび冊子を制作し、情報の可視化と新入寮生の不安軽減を図った。これらの冊子は大学広報とも連携し、今後は学外にも配布予定。
	経営2年	加藤 陽貴	
優秀団体賞(学長賞)	現代法学チーム(Cチーム)		東京都が実施した「大学生とともにこれからの消費社会を考えるプロジェクト」の一環で行われた、消費者に向けた提言を競うコンテストにて4チーム中「最優秀賞」に選出。  参加した学生ミーティング企画「これからの消費社会、どうする？」において、若者がこれからの社会の担い手としてどのように行動していくべきかを考え、提言を広告として表現。法律を学ぶ現代法学部生として、日常的に目にする機会の多いインターネット上に潜む広告詐欺をテーマにした。 この問題点を法的視点から整理し、消費者としてどのような行動をするのが望ましいのか議論をする中で、消費者が被害に遭った際に自分を守るためには最終確認画面のスクリーンショットを残すことが重要であるという点を、判例を用いて提言にまとめた。また、今回のようなテーマは大学生活の中で得た知識を実際の課題解決に活かす良い機会となったが、同時に法律を学ぶ私たちにとって当たり前の概念や言葉が、一般の人には伝わりにくいという課題にも直面。 より幅広い世代に伝わるよう専門用語をかみ砕き、皆が理解しやすい表現を使用するなど試行錯誤を重ね、東京学生広告研究団体連盟所属の学生に素敵な広告を作っていたいただいた結果、最優秀賞を受賞。  ■参加チーム:4チーム ■チームメンバー:岩木 葵(現代法3年)
	現代法3年	関戸 彩月	
奨励賞【個人】(父母の会会長賞)	基礎演習Bグループ		公益社団法人ACAPが主催する消費者問題に関する論文公募「わたしの提言」※4において、現代法学部2年次必修科目である基礎演習の学修成果として作成した論文が入選。  本公募は、消費者が消費社会のあり方について考える機会を提供し、消費者市民社会の一員として積極的に参画することを目的とした全国規模の取り組み。学外から評価を受ける機会として高い意義を有している。 論文では、自治体指定ゴミ袋の色分けに着目し、色覚特性を持つ人々にとって分別が困難となる現状を問題として取り上げた。基礎演習におけるグループでの討論や役割分担を通じて、色覚特性に関する基礎知識、複数自治体の制度比較、シミュレーションによる検証を行い、色だけに依存しない分別方法の必要性を論理的に整理。その上で、文字表示やパターン、形状の工夫など、ユニバーサルデザインの観点から現実的かつ段階的な改善策を提案。  ■応募数67作品(一般56.7%、学生43.3%) 最優秀賞:仙台市立郡山中学校 教員 優秀賞:経営学修士 一般社団法人日本エステティック協会 会員 入選:東京都立国際高等学校 教員、鳴門教育大学大学院学校教育研究科、東京経済大学
	現代法2年	渡邊 平護	
優秀個人賞(父母の会会長賞)	経営3年	木暮 真理	①MOS世界学生大会2025 MOS世界学生大会2025に参加し、日本代表選考においてWord 部門で入賞。日本全国延べ1万2千人を超える学生の中から選ばれた。各部門(Word、Excel、PowerPoint)20名ずつが入賞者として選ばれる。  ②企業×学生 事業プロジェクトコンテスト はりま産学交流会主催の上記コンテストに応募。兵庫県の企業の課題を解決するために4つのアイデアを提出し、4つ全てのアイデアで受賞。 具体的には、西日本衛材株式会社と株式会社ジャパンアイテムコーポレーションの2社それぞれより企業賞を、神姫観光株式会社と常盤堂製菓株式会社の2社それぞれより努力賞を受賞。  ■企業賞受賞チーム(11チーム): 東京大学、横浜国立大学、早稲田大学、慶應義塾大学、関西大学 など ■努力賞受賞チーム(10チーム): 青山学院大学、法政大学、Temple University Japan Campus、神奈川大学 など

IV. ゼミ学外活動部門

1. 社会貢献活動等

優秀団体賞(学長賞)	小木 紀親ゼミ		<ul style="list-style-type: none"> <li>●RE:キャップPJ ペットボトルのキャップを回収し、それを材料としたコースター作成を行う国分寺発のアップサイクル活動。環境問題を自分事として考えてもらおうと同時に、学内のSDGs宣言に合う取り組みとして実施。作成したコースターは生協、国分寺の祭り、学園祭、にしこくお土産店で販売。</li> <li>●消費者に向けた提言(東京都生活文化スポーツ局消費生活部より依頼) 都庁にて開催された「提言ミーティング」にゼミから2チームが参加し、消費者に向けた提言を作成。提言をもとに作成されたポスターは、消費者啓発用ポスターとして都が再作成のうえ、都内全ての大学・短大・専門学校・高校に送付され、学内掲示が依頼されている。</li> <li>●NAGAOKAとのコラボ「こんな商品あったらいいなPJ」 レコード針で世界シェア99%を誇る企業であるNAGAOKAの社長、専務に対し、3グループがプレゼンを行い、各賞・副賞を獲得。同日は、外部公開、オープンゼミにし、また対外的な場面でも紹介したことから広く本学を知らしめた。</li> <li>●TFT×東経大生協×小木ゼミのコラボ 生協の売上向上を図るとともに、1食販売あたり20円をアフリカの子どもの給食へ寄付する社会貢献活動として、健康ランチの企画提案・販売・プロモーション・試食会を行った。前期は24,540円(1,227食×20円)を寄付。</li> <li>●地域連携スチューデントアワード2025 ファイナルリストとして西武信用金庫本社にてプレゼンを行い、最優秀賞を獲得。</li> <li>●多摩大学アクティブラーニング発表祭 招待ゼミとして取り組んでいる地域活性化・社会貢献活動についての発表を行い、本学を知らしめた。</li> </ul>
	経営3年	飯塚 心夢	
優秀団体賞(学長賞)	藤井渡邊特別ゼミ		<p>国分寺市や近隣市町村を中心に、地域活性化を目的とした地域貢献活動に取り組んでおり、今年度は中央線沿線エリアで、地域住民が交流できる場づくりを行った。</p> <p>1, 国分寺市×タツノコプロ様主催「アニメのまち祭り」イベントへ参加 cocobunjiプラザにてスタッフとして参画。緑日や塗り絵を実施し、老若男女が参加。世代間交流を促し地域コミュニティの活性化に寄与。</p> <p>2, 緑日イベントの開催 三鷹市のMitsuba cafeにてイベントを企画・運営。毎年数万人が来場する国際交流イベントに合わせて実施。約150組の親子連れが来場、約2万円を売り上げ、実践的な学びを得た。別途主催イベントの宣伝やお店の周知・発展にも貢献。</p> <p>3, 古民家泥団子作り親子イベントの開催 三鷹市のフリースペースニワビラキノエにて、親子対象の工作イベントを企画・運営。地域交流と施設認知の向上を図り、イベントの質向上に挑戦。親子6組が参加。体験内容や学生のサポートが高く評価された。</p> <p>また、継続して「Let's浴衣ですたでい」「健康フェスタ」を開催。愛校心の向上や学生の学びの機会の創出、SDGsの啓蒙に取り組んだ。</p>
	経営4年	望月 亮	

2. 学外コンクール等入賞

優秀団体賞(学長賞)	石川 雅也ゼミ		<p>2025年1月18日～2026年1月15日までの期間において、ゼミでの研究活動に積極的に取り組んだ結果、以下のような成果を上げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第25回日経STOCKリーグにて、4グループが入選。</li> </ul> <p>以上は、金融分野における大学生対象のレポートコンテストの中でも、権威ある組織の主催による多くの大学が参加する大会における成果であり、対外的に非常に大きな成果となった。</p> <p>石川ゼミとしてはこれで12年連続の入選(2013年度2チーム、2014年度4チーム、2015年度4チーム、2016年度3チーム、2017年度1チーム、2018年度2チーム、2019年度3チーム、2020年度2チーム、2021年度3チーム、2022年度1チーム、2023年度4チーム、2024年度4チーム)。</p>
	経営3年	船間 暖生	
優秀団体賞(学長賞)	森岡 耕作ゼミ		<p>ゼミでは、マーケティング理論とデータ分析を学びながら、それを社会課題に対して応用することで、創造的な問題解決策を提案することを学ぶ。その取り組みの一環として、チームで2つの大会に出場し、いずれも高い成果を挙げた。</p> <p>①保険アイデアコンペ「INID (Insurance Ideathon)」 産学連携で開催。第1回大会のテーマである「Insurance Innovation」に基づき、保険分野における新たな価値創造を目指した「保険プラットフォーム」を提案。全国の大学から応募があった中で予選を勝ち抜き、決勝5チームに残った。最終的に優秀賞(第2位)に選ばれた。 ■決勝大会5チーム: 関西大学1チーム、慶應義塾大学1チーム、早稲田大学2チーム、東京経済大学1チーム ■結果:最優秀賞 慶應義塾大学/優秀賞 東京経済大学、早稲田大学</p> <p>②関東学生マーケティング大会 日本マーケティング協会主催。14大学21ゼミ60チームが参加。実証分析を伴う研究論文に加え、それに基づくプレゼンテーションを行う、マーケティング知識と創造性を競う大規模な大会。 11月15日に行われた一次審査、11月29日に行われた二次審査を通過し、最終審査対象の5チームに残った。 ■プレゼン賞結果:第1位 東京経済大学、第2位 立教大学、第3位 早稲田大学</p>
	経営3年	猿渡 大和	
優秀団体賞(学長賞)	北村 真琴ゼミ		<p>株式会社宣伝会議が主催する「第17回 販促会議 企画コンペティション」に参加し、二次審査通過および学生賞を受賞。4名で構成されたチームを編成し、マースジャパンリミテッドが出題する「M&amp;M'sのブランドファン拡大、若年層の取り組みができるアイデア」という課題に対する解決策を提案。プロの広告クリエイターも数多く参加する販促コンペにおいて、二次審査を通過し、応募数5,195本の中から54本に選出(通過率:1.04%)、また学生応募数約2,800本の中から、学生賞2本のうち1本に選出。表彰式に招待され、審査を担当したプロの広告クリエイターより、企画の着眼点および構成力について評価を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■応募数:5,195本</li> <li>■チームメンバー: 高橋 裕人(経営4年)、山田 颯桜(経営3年)、相原 幸村(経営2年)、庄司 陽琉(経営2年)</li> </ul>
	経営3年	山田 颯桜	

優秀個人賞(父母の会会長賞)	小木 紀親ゼミ		<p>「令和7年度 消費者教育学生セミナー」(主催:日本消費者教育学会、独立行政法人国民生活センター/後援:消費者庁、文部科学省)内、「消費者教育に関する企画・提案コンテスト」において「最優秀賞」(グランプリ)および「優秀賞」(準優勝)を獲得。</p> <p>テーマ:「みんなでつくる消費者市民社会のための消費者教育の提案」</p> <p>セミナーでは、ワークショップとしてグループに分かれて消費者教育の具体的な提案をまとめ、その成果をプレゼンテーションする。そのグループのリーダー、副リーダーとして班をまとめ上げ、グループ発表のアイディア出し、資料作成及びプレゼンターとして活躍。短時間で作り上げたPPT資料やプレゼンは大変すばらしいものがあり、最優秀賞、優秀賞を獲得することとなった。</p> <p>■参加者(団体)数:40名・7グループ</p>
	経営3年 経営3年 経営3年	関谷 天愛蘭 飯塚 心夢 河田 京介	
優秀個人賞(父母の会会長賞)	小木 紀親ゼミ		<p>「地域連携スチューデントアワード2025」最終報告会(主催:西武信用金庫)が4大学8チームにより行われ、「ワンダースプーン」チームが「最優秀賞」(グランプリ)を受賞。</p> <p>セミオーダー式のドレッシングとして、「あじデザ! ~あなたの好みに寄り添うセミオーダードレッシング~」というアイデアを発表。(提供企業:タミー食品工業株式会社)</p> <p>商品開発はもとより、プロモーションの面においても出色であり、プレゼンも卓越し他チームを圧倒する出来栄であった。加えて、この結果を出したのが2年生であることも強調。</p> <p>同大会の開催は12年目を迎え、小木ゼミが参加を始めた21年度以降、3度優秀賞(準グランプリ)を獲得していたが、最優秀賞を獲得したのは初。</p> <p>■参加チーム:嘉悦大学、高千穂大学、東京経済大学、東洋大学(4大学8チーム)</p>
	経営2年 経営2年 経営2年	武田 莉子 藤田 桂行 古川 あつら 石森 七海	
優秀個人賞(父母の会会長賞)	石川 雅也ゼミ		<p>日銀グランプリにおいて奨励賞を受賞。</p> <p>現行の消費者物価指数(以下CPI)の問題点を指摘するとともに家計簿アプリやキャッシュレス決済データを活用し、単身・子育て・高齢などの世帯属性、所得階層、地域別の実態を反映する「世帯属性別CPI」を作成することを提案。これにより、最終的にCPIを消費者である国民にとって身近なモノにし、インフレーションをより身近に感じることで投資などの資産運用を促すことを目標とするという研究を行った。</p> <p>研究の過程では、先行研究や統計データの分析に加え、省庁より意見をいただいたり、指導教員やゼミの仲間と議論を行ったりすることで、自身の考えを客観的に見直しながら内容を深化させてきた。思うように結論が導けない場面も多くあったが、課題を細分化し、試行錯誤を重ねることで研究の完成度を高めることができた。</p> <p>■38大学から133編の応募 ■決勝進出チーム(4チーム): 同志社大学、帝京平成大学、東京大学、同志社大学 奨励賞チーム(6チーム): 同志社大学、同志社大学、東京理科大学、日本大学、慶應義塾大学、東京経済大学</p>
	経済4年	池野 壮哉	
優秀個人賞(父母の会会長賞)	小山 健太ゼミ		<p>国際ビジネス研究インターカレッジ大会(以下IBインカレ)の英語論文部門でゼミ史上初の快挙となる「ファイナリスト」(=上位8チーム)に選出。あわせて、実践的示唆に優れた論文として特別賞である「大石芳裕賞」を受賞。全国27チームが出場。</p> <p>2年次に論文の輪読等を通じて異文化マネジメントに対する知識を蓄積、3年次にIBインカレを目標に「国際経験の低密度環境から生じるグローバル業務関与」をテーマとして1年間かけてチームで英語論文を完成。また、英語でのプレゼンテーション・質疑応答への準備をチームで進めた。</p> <p>研究の難易度が高く、試行錯誤する場面も多かったが、役割分担とメンバーの責任ある行動、そしてチームワークにより研究をやり遂げることができた。</p> <p>■本選出場チーム(ファイナリスト):明治大学、南山大学、学習院大学、東京経済大学、東京大学、亜細亜大学 ■そのほかチームメンバー(コミュニケーション3年) 中澤 奈々、内野 珠耶、橋場 あろえ、加藤 理子、小巻 花菜子、堀切 美空、大澤 元希</p>
	コミュニケーション3年	山中 拓弥	
優秀個人賞(父母の会会長賞)	井上 普就ゼミ		<p>株式会社プロネクサスが主催する第17回プロネクサス懸賞論文募集に応募し、ゼミとして2年連続で佳作を受賞。応募は3年生1名と2年生1名の合計2名。</p> <p>株式会社プロネクサスから指定された「上場会社のディスクロージャー・IRをより効果的、効率的なものにするための研究および提案」というテーマのもと、「業績連動配当における政策運用実態の分析」という論文を作成。</p> <p>10月20日が応募締切であることから、7月から研究を開始。テーマ選定後、プライム、スタンダード企業について、2015年から2025年の10年分の財務データなどの定量的情報と配当に関する定性的情報を、有価証券報告書から収集。業績連動配当政策の現状分析をし、外国人投資家比率と時価総額の2点で属性分析を行い、その後、政策運用実態について分析を行った。分析をおおして、現状としては、業績連動配当政策を採用している企業数は増加傾向にあるが、業績連動配当の企業は業績と配当を必ずしも連動させていないことが明らかとなった。その結果をもとに、論文の最後に開示内容の改善策を提案。審査員の方からは、日本が安定配当政策を採用している中で、業績連動配当政策に視点を向け、属性ごとに分析を行った点が評価された。</p> <p>■応募本数は13本(部門Ⅰ(個人または2名)8本、部門Ⅱ(大学生グループ)5本)。 部門Ⅰ 審査結果(佳作のみ):一橋大学大学院、東京経済大学 ■そのほかの応募メンバー:荒井 陽太</p>
	経営2年	猪崎 航史	